

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：35411

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26670998

研究課題名(和文)ポートフォリオを活用した親子で学ぶ性教育プログラムの開発

研究課題名(英文)Development of Parent-Child Learn Together Sex Education Programs That Utilized a Portfolio

研究代表者

若井 和子(WAKAI, Kazuko)

福山平成大学・看護学部・教授

研究者番号：60584133

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：わが国の子育て期にある親が、子どもから受ける性の質問に対して満足に対応できない現状がある。そこで、本研究は幼児期から親子で学ぶ性教育にポートフォリオを取り入れ、次世代まで継続できる性教育プログラムを開発し、実施・評価することを目的とした。
その結果、幼児期から親子で始める性教育が親子関係に与える効果および性教育にポートフォリオを取り入れた効果について評価を得た。

研究成果の概要(英文)：Japanese parents at present-day, they can't respond adequately to the sex related questions thrown at their children. Therefore, this study aimed to adopt portfolio into sex education where parents and children learn together starting at children's infancy, and to develop, implement, and evaluate a sex education program that can be succeeded onto the next generation.
As the result, we were able to evaluate the effect that sex education for parents and children together begun at the children's infancy has on the relationship between the parents and the children, and the effect of introducing portfolio into sex education.

研究分野：助産学・母性看護学

キーワード：性教育 幼児 親子 ポートフォリオ 親子関係

1. 研究開始当初の背景

わが国の子育てに関わる親や教師(保育士を含む)は、性教育を受けた経験が少なく、子どもから性に関する質問に十分な対応ができていない現状がある。この問題に対して先行研究では、幼児期に行う性教育内容の検討および性教育プログラムの実践、幼稚園と保護者の連携について報告されている¹⁾。これらを基に、性教育を学習した子どもの反応と評価、親が子どもに性教育を実施できるプログラム内容の充実化が求められている。

このような背景のもと研究代表者は、予備的研究を2011年より開始し、3~4歳児をもつ母親が教える性教育の実態調査から、「プライベートゾーン(口、乳房、陰部)の意味「誕生の過程」について教えていないことを報告した²⁾。そこで、親が自信を持って子どもに性教育を継続して教えることのできる教材にポートフォリオ(親子で性教育を共有してきた成果物を挟むファイル)を取り入れた性教育プログラムの開発を課題とした。

2. 研究の目的

本研究は、ポートフォリオを取り入れた親子で学ぶ性教育プログラムの作成および実施、親子で学ぶ性教育が親子関係に与える効果を評価〔研究1〕、親子で作る性教育ポートフォリオの効果について評価〔研究2〕を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

1) 性教育プログラムの作成

性教育プログラムは、3~4歳児親子と5~6歳児親子の2クラスに分け、プログラムを各クラス3つのテーマで構成した。教材には、エプロンシアター(胸当てエプロンを舞台にしてポケットから子宮・胎児・胎盤を取り出しながら説明する方法)、ペープサート(紙人形劇のことで紙に人物を描いて切り抜いて棒を付けて動かすなどして演じる方法)、パネルシアター(布製パネルに切り抜いた人形を貼りながら話を進めていく、動きのある紙芝居に類似した方法)を用いた。

ポートフォリオ(親子で性教育を共有してきた成果物を挟むファイル)を第1回~第3回までの教材資料にして挟んだものを参加者全員に配布した。

2) 『幼児期から親子で始める性教育』の実施

平成26年度から30年度にかけて、『幼児期から親子で始める性教育』を4市において3~4歳児親子・5~6歳児親子を対象に、毎月1テーマずつ1クール全3回を実施した。

(1) 3~4歳児クラスのテーマ

第1回: はじめまして赤ちゃん、第2回: 生まれてきてくれてありがとう、第3回: 男の子・女の子大切な性器

(2) 5~6歳児クラスのテーマ

第1回: 赤ちゃんになって生まれる体験、第2回: 大切なからだ、第3回: 自分も大切、みんなも大切

2) 質問紙調査

(1) 対象者の背景について男女別の呼称、性別役割、プライベートゾーン、自己存在感について子どもに教えたか、立会い出産希望の有無について等、第1回目性教育プログラム終了後に調査を実施した。

(2) MP 親子関係診断検査³⁾により、「親が子どもに対する自分の関わりを自覚すること(親のタイプ)」、「親から見た子どもの様子(子どものタイプ)」を第1回目および第3回目終了時に調査した。

(2)- 親のタイプは、「M型: 子どもを可愛がり躰が緩やか」、「P型: 子どもと距離を置き、厳しく躰る」、「W型: 子どもを可愛がるが、躰は厳しい」、「O型: 子どもと距離を置き、躰は緩やか」の4つである。

(2)- 親から見た子どものタイプは、「ひっそり型: のびのびしておらず頑張りも見られない」、「朗らか型: 頑張りは見られないがのびのびしている」、「頑張り型: のびのびしてはいないが頑張りが見られる」、「いきいき型: のびのびしていて頑張りも見られる」の4つである。

(3) STAI 調査票(State-Trait Anxiety Inventory-form JYZ)⁴⁾を用いて、保護者が「今まさに、どのように感じているのか(STAI: Y-1): 状態不安」、「普段一般にどのように感じているのか(STAI: Y-2): 特性不安」を毎回調査した。

(4) 性教育プログラム受講後の子どもの変化について第2回目および第3回目終了時に自由記載で調査した。

3) グループインタビュー

第3回目の性教育プログラム終了後、約1ヶ月経た時期に研究代表者が所属する施設の一角に集合して30~40分程度のグループインタビューを行った。対象者の同意を得てインタビュー中の会話を録音した。インタビューに集中できるよう、子どもを別室で預かり共同研究者らによる遊びを提供した。調査内容は、半構造化面接法により「性教育プログラム受講後の子どもの変化」「ポートフォリオについて」自由に語ってもらった。

4) 倫理的配慮

4市にある保育園および幼稚園を通じて保護者へ研究協力を依頼した。子どもの同意については、親の代諾とし、協力の可否は自由決定であること、匿名性の保持、結果の公表などについて承諾を得た。本研究は、所属大学の倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

〔研究1〕

親子で学ぶ性教育が親子関係に与える効果を評価

1) 親子で学ぶ性教育プログラムに対する親の期待

『幼児期から親子で始める性教育』に参加した3～4歳児をもつ保護者21人のうち有効回答17人を分析対象とした。子どもの関わりに対する質問項目をクラスタ分類し、親のタイプ【自律型】、【教育型】、【密着型】に抽出できた。さらに「親子で一緒に性教育を学ぶことに対する思い(自由記述)」の単語頻度回数を親のタイプ別に分析すると、性教育プログラムに参加を希望する親の半数以上が【自立型タイプ】であり、社会的・情緒的発達を促す内容を期待していた。【教育型タイプ】および【密着型タイプ】は、親子で参加することにより、親が家庭で活用して性教育できる教材を期待していることがわかった。

2) 『幼児期から親子で始める性教育』が親子関係に与える効果

4市に居住する3～6歳児親子のうち、『幼児期から親子で始める性教育』に全3回出席した保護者35人を分析対象とし、MP親子関係診断検査およびSTAI調査を行った。

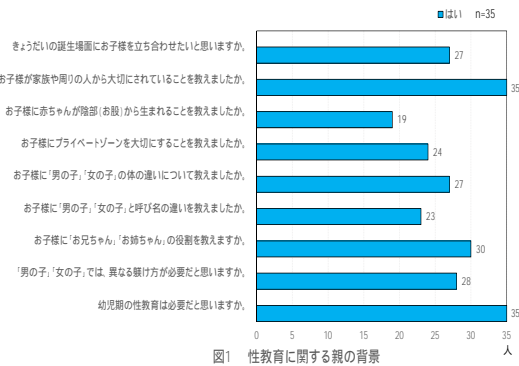


図1 性教育に関する親の背景

図1は、全ての親が幼児期の性教育を必要であると考えており、大半の家庭で性教育を教えているが、赤ちゃんが陰部から生れてくることを教えている親は約半数であった。

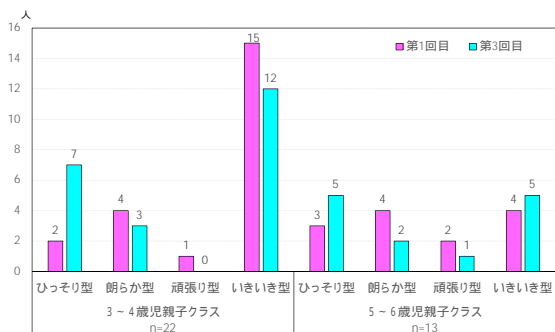


図2 親から見た子どもの様子

性教育プログラムを受講した親子の特徴は、3～6歳児全員いきいき型が最も多く、親の子どもに対する関わりは3～4歳児クラスの親の場合、厳しく躰ける親が多く、5～6歳児クラスの親は、子どもを可愛がり躰は緩や

かなタイプと子どもと距離を置き厳しく躰ける正反対のタイプが多かった(図2・図3)。

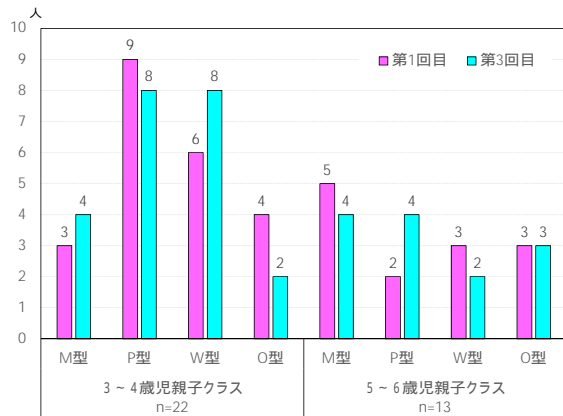


図3 自分の子どもに対する関わりタイプ

図4のとおり、親が今感じている状態不安得点は、性教育の教え方がわからない初回受講時が最も高く、受講により変化していた。

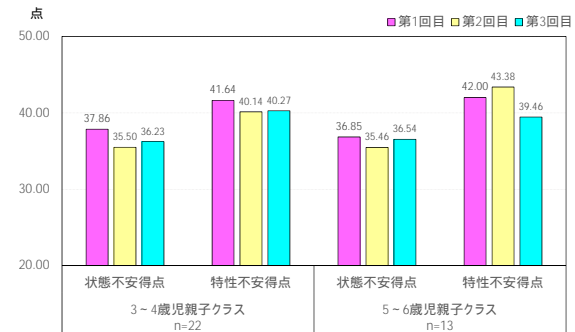


図4 受講講座別STAI調査の平均得点

第2回目終了時点での3～4歳児クラスの言葉ネットワーク図は、【お腹】【いる】【大事】【見る】が太いエッジで示され、“お腹の中にいたときの写真を何度も見ていた”が原文にあった。5～6歳児クラスでは、【欲しい】【赤ちゃん】【お母さん】【生まれる】【話す】が太いエッジで示され、“赤ちゃんが欲しい”“お母さんのお股のトンネルを通して生れてきた”が原文にあった(図5)。

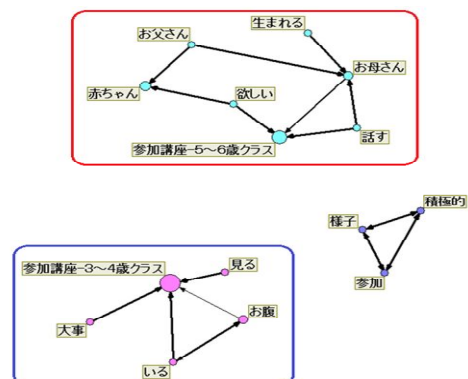


図5 受講クラス別に見た 子どもの変化 ネットワーク図(2回目)

第3回目終了時点での3~4歳児クラスの言葉ネットワーク図は、【ママ】【大好き】【お腹】【見る】【変化+ない】【楽しむ】【ちんちん】【生まれる】であり、5~6歳児クラスでは【いか】【歌う】【お父さん】【大事】“お父さんにお尻を触られたら大事な所を触らないで、と怒っていました”“お父さんが裸でいたら大事な所を隠さないといけないと言っていました”と原文があった(図6)。

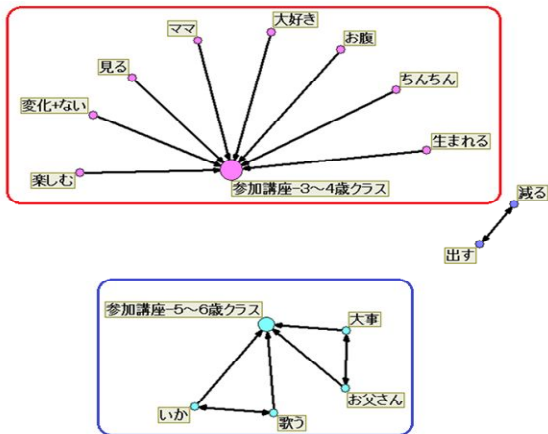


図6 受講クラス別にみた 子どもの変化 ネットワーク図(3回目)

〔研究1〕1)・2)より次のことがわかった。

性教育プログラムを受講した親子の特徴は、3~6歳児全員いきいき型が最も多く、親の子どもに対する関わりは3~4歳児クラスの場合、厳しく躰ける親が多く、5~6歳児クラスの親は、子どもを可愛がり躰は緩やかなタイプと子どもと距離を置き厳しく躰ける正反対のタイプが多かった。

親が今感じている不安状態は、性教育の教え方がわからない初回受講時が最も高く、受講により変化する。

幼児期から親子で性教育プログラムを受講することは、自尊心が育まれる時期に子どもの感情リテラシー発達を促し、親は、わが子の質問に対応できるようになり、育児の自己効力感を得る。

〔研究2〕

親子で作る性教育ポートフォリオの効果について評価

性教育プログラムに全出席した保護者 35人がグループインタビューで語った「家庭でポートフォリオを使用した時の子どもの反応」について分析した。

図7は、性教育受講期間中のポートフォリオ使用回数である。3~4歳児クラスおよび5~6歳児クラスとも平均値との差はなく、ポートフォリオ使用頻度は、5~6歳児クラスと親のタイプに関連があった。

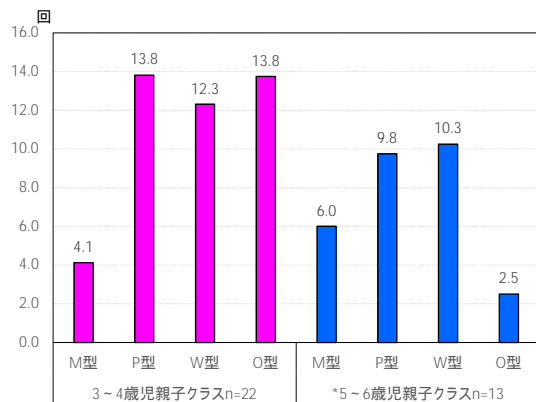


図7 親のタイプとポートフォリオ使用平均回数 *p<.05

図8は、ポートフォリオ使用の有無と受講クラス別に見たポートフォリオを使用した時の子どもの反応」を分析した結果である。「お父さん」「お話」「絵」「親」「人」「男の子」「話」の7つの単語クラスを抽出することができた。ポートフォリオを使用した5~6歳児クラスの子どもの反応には、教材の絵に興味を示して開き、学んだことを父親に説明する行動があった。

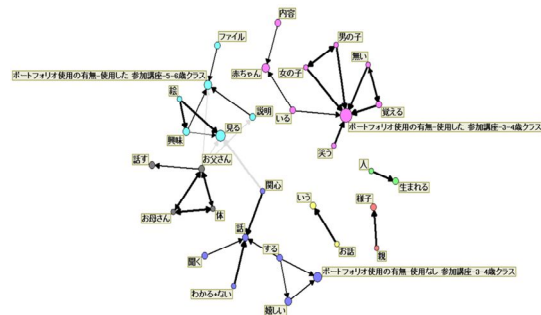


図8 ポートフォリオ使用の有無と受講クラス別に見た言葉ネットワーク図

〔研究2〕より次のことがわかった。

幼児期に親子で学んだ性教育プログラムの内容を教材に取り入れたポートフォリオを活用することは、子どもの興味を教材の中から見つけ、自分が学んだことを他者に伝達することで、子どもの表現力を培うことができる。

親子が共通の会話を楽しみ、子どもから親へのアタッチメント形成に役立つことが示唆された。

今回の調査は、性教育プログラムを1ヶ月間隔で開催しており、約3ヶ月間で親子関係の変化およびポートフォリオの効果について評価するには限界があった。今後、学童期につなぐ性教育プログラム開発を行い、長期的に評価を行う。

<引用文献>

1)及川裕子、幼児期の性教育の意義、日本赤十字武蔵野短期大学紀要、11、1998、0-36

- 2) 若井和子、秦久美子、渋谷洋子、岩井智子、大磯美幸、野村和美、幼児期にある上の子どもに親が行う性教育の実態、日本看護協会論文集 母性看護、2013、92-95
- 3) 水野正恵、MP 親子関係診断検査活用手引、適正科学研究センター、1980
- 4) 肥田野直、福原真知子、若脇三良、曾我洋子、Spielberger CD、新版 STAI マニュアル、実務教育出版、2012

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

若井和子、秦久美子、渋谷洋子、藤井清美、幼児期から親子で始める性教育が親子関係に与える効果、川崎医療福祉学会誌、査読有、Vol.27、No.1、2017、pp.75-84、http://www.kawasaki-m.ac.jp/soc/mw/journal/jp/2017-j27-1/P75-P84_wakai.pdf

若井和子、秦久美子、渋谷洋子、藤井清美、佐竹潤子、山崎晶子、幼児期から親子で始める性教育に参加した親子関係の一考察、第47回日本看護学会論文集ヘルスプロモーション、査読有、2017、pp.31-34

若井和子、秦久美子、渋谷洋子、藤井清美、親子で学ぶ性教育プログラムに対する親の期待、川崎医療福祉学会誌、査読有、Vol.24、No.2、2015、pp.191-199、http://www.kawasaki-m.ac.jp/soc/mw/journal/jp/2015-j24-2/P191-199_wakai.pdf

〔学会発表〕(計2件)

若井和子、秦久美子、渋谷洋子、藤井清美、幼児期から親子で始める性教育にポートフォリオを取り入れる効果の一考察、2017年12月(宮城県)

若井和子、秦久美子、渋谷洋子、藤井清美、佐竹潤子、山崎晶子、幼児期から親子で始める性教育に参加した親子関係の一考察、第47回日本看護学会、ヘルスプロモーション、2016年11月(三重県)

〔その他〕

若井和子、幼児期から始める性教育、講演、なかよし保育園保護者保育士研修会、2016年11月5日(福山市)

若井和子、守りたいあなたと私の性の健康、高大連携公開講座、2016年10月21日(福山市)

若井和子、性教育を考える、講演、備後6大学公開講座、2016年10月13日(福山市)

若井和子、親から子どもに教える性教育、講演、倉敷市立鴨方西小学校 PTA セミナー、2015年9月26日(倉敷市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

若井 和子 (WAKAI, Kazuko)
福山平成大学・看護学部看護学科・教授
研究者番号：60584133

(2) 連携研究者

秦 久美子 (HADA, Kumiko)
川崎医療福祉大学・医療福祉学部保健看護学科・講師
研究者番号：80612457

渋谷 洋子 (SIBUYA, Yoko)
奈良県立医科大学・看護実践キャリア支援センター・講師
研究者番号：20434962

藤井 清美 (FUJII, Kiyomi)
姫路大学・看護学部看護学科・講師
研究者番号：50584489